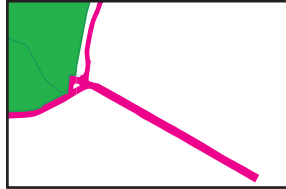


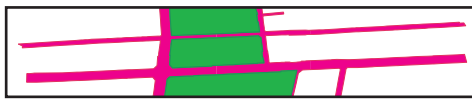
3.3 公園の視覚領域の類型化

都市空間を移動しながら体験する私達にとって、公園の視覚領域の分布の仕方が意味を持つと考える。

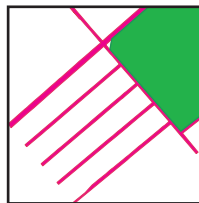
公園の視覚領域について、その形状と分布から以下の六つの類型に分類した。



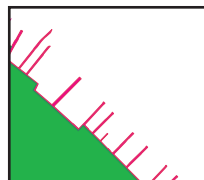
a. 太い線分



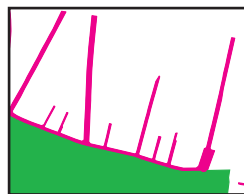
b. 貫通



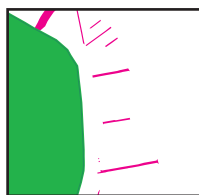
c. 長い線分の反復



d. 短い線分の反復



e. 長短の線分の反復



f. 点在

fig3.4 視覚領域の分類

- a. 太い線分
- b. 貫通
- c. 長い線分の反復
- d. 短い線分の反復
- e. 長短の線分の反復
- f. 点在

a. b. は、単体の線について当てはまる分類であるが、c. d. e. f. は、何本かの線のあつまりについての型である。また、c. d. e. は分布に規則性があるが、f. には規則性が見られないというように分類している。

公園にある樹木の見え方の違いは、公園が周辺都市に及ぼす影響として、景観への貢献と、公園が近くにあることを気付かせるサインとしての働きが及ぶ範囲と強さの違いを示している。

■視覚領域の概念の拡張

今まで公園の視覚領域とは、道路上で公園の樹木が見える場所として線分の集合として見ていたが、視覚領域の類型化によって見出された線分をまとまりとして捉えることをもとに面として捉えることができる。

ひとつの公園の周りには、複数の視覚領域の類型が集まっている。

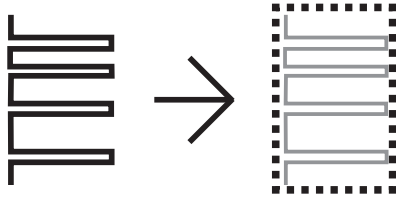


fig3.5 視覚領域の拡張（線から面へ）

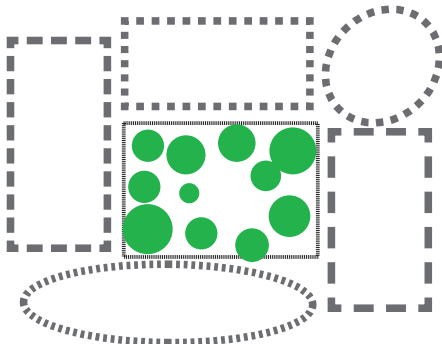


fig3.6 公園は複数の領域に接する

4. 公園と周辺都市空間の関係性

公園の閉鎖性について

はじめに公園が閉鎖的であるという認識を示したが、加えて前章で分析した公園の幹線道路のと合わせて二つの側面から言える。

- ・公園が幹線道路から隠れている
- ・公園の敷地境界の整備（塀などの設置物）

以後この二点について詳しく調査を行い、さらに公園の閉鎖性だけでなく、公園と周辺都市とが関係を持っている事例についても探す。

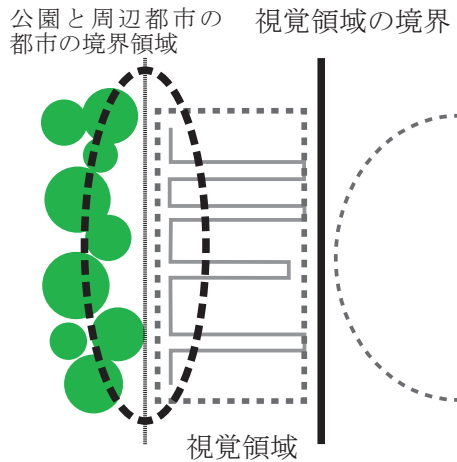


fig4.1 調査対象となる二つの場所

4.1 分析方法

公園と周辺環境の関係性について、公園がつくる領域という視点を出発点とし、二つの側面から分析を行う。ひとつは公園の視覚領域の境界であり、もうひとつは公園の敷地境界付近という領域である。

分析の流れは、まず公園の地形上の立地条件と周辺環境について調べる。また江戸期と現在の地図から、公園の周辺都市空間の状況を調査する。その後で具体的な分析に移る。

具体的な分析方法

分析A 公園の視覚領域の境界

公園の見えがかりが途切れる場所である、視覚領域の境界について分析する。視覚領域は道路空間からの公園の見えについて得られた領域であることから、街路が折れ曲がる、行き止まることで視覚領域は途切れる。東京の街路パターンは江戸期のものを引き継いだものであることから、江戸期と現在の街路パターンについてそれぞれ視覚領域と重ね合わせることで分析する。

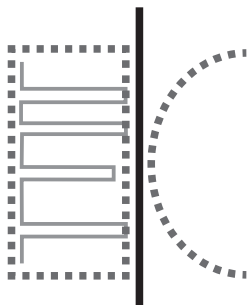


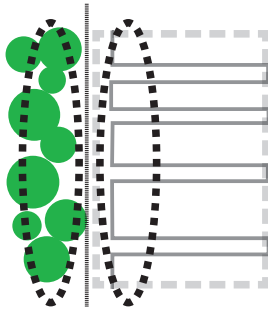
fig4.2 視覚領域の境界

分析B 公園と周辺都市空間の関係性

公園と隣接する都市空間の繋がり方について、公園の敷地境界付近と公園に面する都市空間の二つの側の状況について調査する。それによって公園と都市との間の応答関係について分析する。関係があるときについて、ダイアグラム化して表現した。

公園の側の調査については、公園の境界を構成する要素や公園の一部が周囲に対して開いていることなどに着目する。

公園に面する都市空間とは、場所によって道路であったり、宅地や高速道路、鉄道などであったりするが、公園に面した場所までアクセスができないものについては、公園との繋がりはなく関係性が生まれないと言える。ゆえに公園と周辺都市空間の関係性としては、道路が面しているときについて扱うことにする。着目点は、隣接した場所にある公園、街路樹や植え込み、道路の幅員の変化など自治体によって整備されてできた事例と、商業分布、駐車・駐輪の多さなど自然発生的な事例について調査した。



(fig. 4. 3
公園の側と周辺都市空間の側の境界領域

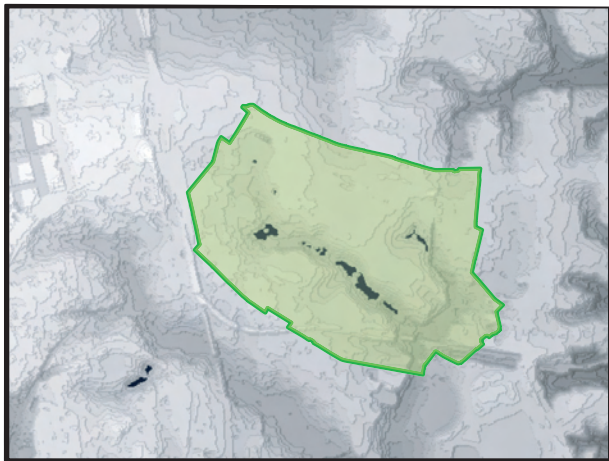


fig4. 2.1 新宿御苑と地形
1 : 25000



4.2 新宿御苑

■地形との関係

公園の境界周辺は平坦で地形が公園の境界となっていない。公園内に三方を囲まれた谷戸が開けている南東だけ谷状になっている。

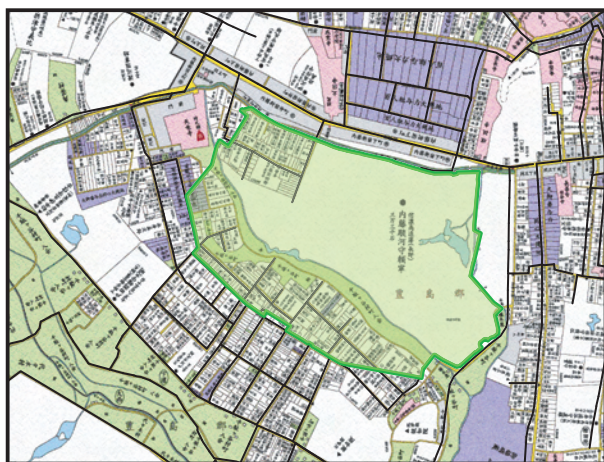


fig4. 2.2 江戸時代の新宿御苑周辺
1 : 25000



■江戸時代の新宿御苑周辺

現在新宿御苑のある場所は、江戸時代内藤家の九万五千坪余と、当時すでに私有地化していたものの、もとは内藤家の屋敷地であった隣接地であった。

甲州街道沿いに町屋が並び、この頃から商業活動が盛んであったことがわかる。

南側では屋敷が短冊状に並び、現在の街路パターンがほぼ出来上がっている。

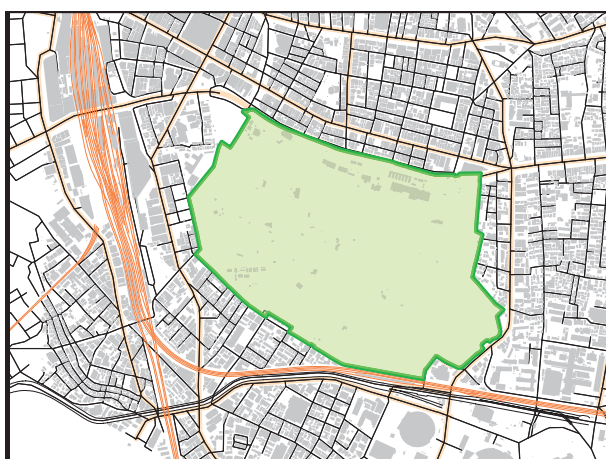


fig4. 2.3 現在の新宿御苑周辺
1 : 25000



■現在の新宿御苑周辺

鉄道（JR）、幹線道路（明治通り）、首都高速が短冊状の街路パターンの中に通された。東側ではお屋敷であった場所の一部が宅地化された。それ以外は、どの場所も江戸時代の街路パターンのまま現在に至る。